

# 老朽原発 うごかすな！ ニュース

## 第29号

発行・老朽原発うごかすな！ 実行委員会

【連絡先】  
090-1965-7102

リレーデモ10日目(12月6日)  
**老朽原発うごかすな！**  
**リレーデモに参加して**

12月6日、気持ちの良い青空が広がる若狭町を歩く

「老朽原発うごかすな！リレーデモ」に参加した。4日には、大阪地裁が大飯原発3、4号機の設置許可取り消しの判決

を出していた後であり、とりわけ気持ちも軽かった。

関西電力は来年、運転開始から40年を超える「老朽原発(高浜1、2号機、美浜3号機)」を再稼働させる計画を立てている。通常の再稼働でも、何らかのトラブルが発生しているところに、原子炉の脆性などの問題が指摘される「老朽原発」を動かすことに不安を感じるの、立地している町の住民も同じだろう。また、今年8月に大飯3号機の定期検査で発覚した1次系配管のひびについて、何



三方駅近くの街並みを行く(先頭が筆者)

の担当もせずに再稼働しようとしていた関西電力の、安全よりも利益を優先する姿勢は若狭の人たちにも知って欲しい。そうした思いを持って行進した。

高浜やおおい町はデモで歩いたことはあるけれども、若狭町は初めてだった。狭い道を縫うように70名のデモ隊は進む。街宣車のメッセージは家の中にいてもはっきりと聞こえるにちがいない。驚く人もいるだろう。しかし、通りで私たちを見つめる目に不安のようなものはなく、どちらかといえば共感を感じた。デモ隊を見送る人たちはお辞儀してくれたりした。昼食を買ったPLANTSでは、僕の「老朽原発うごかすな！」のゼッケンを見て、高齢の女性がお辞儀した。参加者の万歩計では1万歩だったというこ

とで、歩いたのは8キロくらいではないかと思う。家々の生活の情景や山並みも堪能できて得した気分になった。原発の終わりを決定づけるために、これからも声をあげていこう。リレーデモを企画・

リレーデモ9日目(12月5日)  
**京都駅は若狭から60キロ**  
**原発の危険はすぐ隣**  
**京都の人たちも親しげに挨拶したり手を振ってくれる**

「老朽原発うごかすな！リレーデモ」参加の簡単な報告をさせていただきます。

前日12月4日夕方の京都駅前の関西電力金曜行動にも参加。大阪地裁の大飯原発設置許可取消し判決の朗報で、いつもにも増して明るく活発な集会。福島から黒田節子さんも来て、フクシマの話。頷きながら聞いていた女性たち。京都駅は若狭から約60kmとか。

原発の危険はすぐ隣だ。12月5日(土)午前10時、近江高島駅。出発前、木原壮林さんが挨拶で次のようなお話をされた。

「昨日の大阪地裁の画期的な点は、基準地震動についての規制委員会の決定は過ちであるとはっきり認めたことです。ばらつきのある最も高いところでの危険を考慮しなくてはならないと指摘している。これは再稼働反対にも根拠になる。山は動き始めています。がんばりましょう。」

そこから歩いて歩いて約13km。風光明媚の琵琶湖近くの町、高島から今津までを、「再稼働許すな！ワイロよりハイロ！」などシユプレヒコールをあげながら行く。

実施してくださった老朽原発うごかすな！実行委員会の皆さまに感謝申し上げます。  
(サヨナラ原発福井 ネットワーク 若泉政人)

40人ほどのぼり旗を掲げて行く。歩くというのはさまざまな発見があり、自分の内側にも何か新しいものが構築されていくのだということ、このコロナ禍で久しぶりの遠出となった今日のデモであらためて思った。

途中2回、全員の車移動があった。畑道や湖畔などよりも少しでも民家のある町中を歩いて、地元の人々にアピールすることや、連日の行進での疲労を考えたり、行程の距離を進める、などの効果があるのかなと思ひ、また車が適所に配備され用意準備が周到にされていることに、いつも



近江高島駅前て出発の準備(12月5日)

ながら感激した。

町の人たちも親しげに挨拶したり手を振ってくれて、このリレーデモが根付いている様子が見られた。



途中、道の脇を流れる側溝に美しい緑の藻があり、手書きの看板があった。「この地域は生水(しようず)の郷です。川に自生しているのが梅花藻です。地域みんなで自然を守っています。」

東京ならどぶ川になるようなところに美しい緑の藻と魚影があった。針江というこの

地の自然がいつまでも豊かであるようにと、原発は絶対に廃炉にしないでと心新たに思った。(たんぼぼ舎、再稼働阻止全国ネットワーク 青山晴江)

# 12月2日 滋賀県知事・大津市長に 要望書を提出

12月2日(水)、「老朽原発うごかすな！」実行委員会

と賛同団体「原発のない社会へ2021びわこ集会実行委員会」の5名は、三日月大造

滋賀県知事と佐藤健司大津市長に対し、「関西電力や政府

者から「2014年原子力災害対策の見直し検討会議」において、飲用水の備蓄を家庭・市町・県でそれぞれ各々1日

①老朽原発の即時廃炉、②使用済み核燃料を増やす原発の全廃、③使用済み核燃料の中間貯蔵地と安全な処理・保管法の早期提示」を求め、

福島原発事故から10年が経ち、今でも故郷に帰れず苦難の生活を続けておられることを考え合わせれば、若狭で原発事故が起きれば、滋賀県の備蓄案や摂取制限案では県民を守れないとして、滋賀県に原子力防災対策を再度検討するよう求めた。

④「滋賀県・大津市全域が大事故被害地になりかねないこと、そのため全住民を対象とした避難訓練を実施する」よう要望書を読み上げ、意見交換の後、要望書を手渡した。

続いて、大津市役所の防災対策課を訪れ、危機管理計画係長から新大津市長の原発防災への考えを聞いたが、「国の動きに合わせて考える」との返答だった。政府のエネルギー基本計画では、原発稼働をさらに進め、危険な老朽原発までも動かそうとしている。

その後、各議会議長・議員に対し、議会事務局を通じて要望書を手渡した。

最初に滋賀県庁防災危機管理局原子力防災室を訪れ、県民として、政府や関西電力に事故率の高い老朽原発の全廃を求

めるよう訴えた。また、参加者から「2014年原子力災害対策の見直し検討会議」において、飲用水の備蓄を家庭・市町・県でそれぞれ各々1日分の備蓄とびわ湖の摂取制限を10日間としていること。

福島原発事故から10年が経ち、今でも故郷に帰れず苦難の生活を続けておられることを考え合わせれば、若狭で原発事故が起きれば、滋賀県の備蓄案や摂取制限案では県民を守れないとして、滋賀県に原子力防災対策を再度検討するよう求めた。

それを考え併せれば自治体が国策に追随をすることは、大津市民の命と財産が守れないとして大津市に再考を求めた。若狭の原発が事故を起こせば、琵琶湖を水源とする関西1450万人が飲み水を始めとする生活水が失われるとして、関西から注目されている滋賀県と大津市。住民の飲用水や取水制限など3日間〜10日間で防災対策ができるとする自治体の実態を目の当たりにした申入れ行動だった。(若狭の原発を考える会 木戸恵子)

## カンパのお願い

リレーデモは、今日で終わります。しかし闘いは、まだまだこれからです。私たちの行動如何では、老朽原発即時廃炉の可能性はまだ十分あります。実行委員会の取り組みを進めるため、さらなるカンパをお願いいたします。振込先・老朽原発うごかすな！実行委員会 口座番号0099014133 4563 へお願いします。